

## 本書の特徴

1 明治元年〜昭和20年までに発行された中央紙、地方紙、海外邦字新聞のほとんどすべてを渉猟し、約1万5千件の怪異妖怪記事を抽出。原資料として影印して6冊に収録。第一級資料として、研究者に供するようにした。

2 記事は時系列に整頓し、データ(日付・新聞名)は活字に起こし直して小見出しにした。さらに番号を付けることにより、必要な記事の検索をしやすくした。

3 多岐にわたる内容を分類のうえ、小見出しにマークを記載、一目で記事種類を判別できるようにした。また、利用者の研究テーマにアプローチしやすいよう、内容が分かる一覧を付けた。

4 全6巻の総索引CD-ROMを最終巻に収録。このCD-ROMは全巻の「掲載記事内容一覧」で構成。



## 民俗学・歴史・風俗・社会学・文学の第一級資料!!

怪異妖怪記事資料集成 全6巻 体裁・造本●A4 判変型・上製クロス装・ボール函入り

- 明治期 怪異妖怪記事資料集成 全1巻**  
 定価◆本体45,000円+税  
 ISBN 978-4-336-05041-0 (1354頁)
- 大正期 怪異妖怪記事資料集成 上・下巻**  
 定価◆本体 各45,000円+税  
 (上巻) ISBN 978-4-336-05812-6 (1229頁)  
 (下巻) ISBN 978-4-336-05813-3 (1237頁)
- 昭和戦前期 怪異妖怪記事資料集成 上・中・下巻**  
 定価◆(上・中巻) 本体 各50,000円+税  
 (下巻) 本体 55,000円+税  
 (上巻) ISBN978-4-336-06004-4 (1472頁)  
 (中巻) ISBN978-4-336-06005-1 (1463頁)  
 (下巻) ISBN978-4-336-06075-4 (1300頁)

発行 国書刊行会  
 〒174-0056 東京都板橋区志村 1-13-15  
 TEL : 03-5970-7421  
 FAX : 03-5970-7427  
 e-mail : info@kokusho.co.jp  
 http://www.kokusho.co.jp

お取り扱い書店

# 怪異妖怪記事資料集成

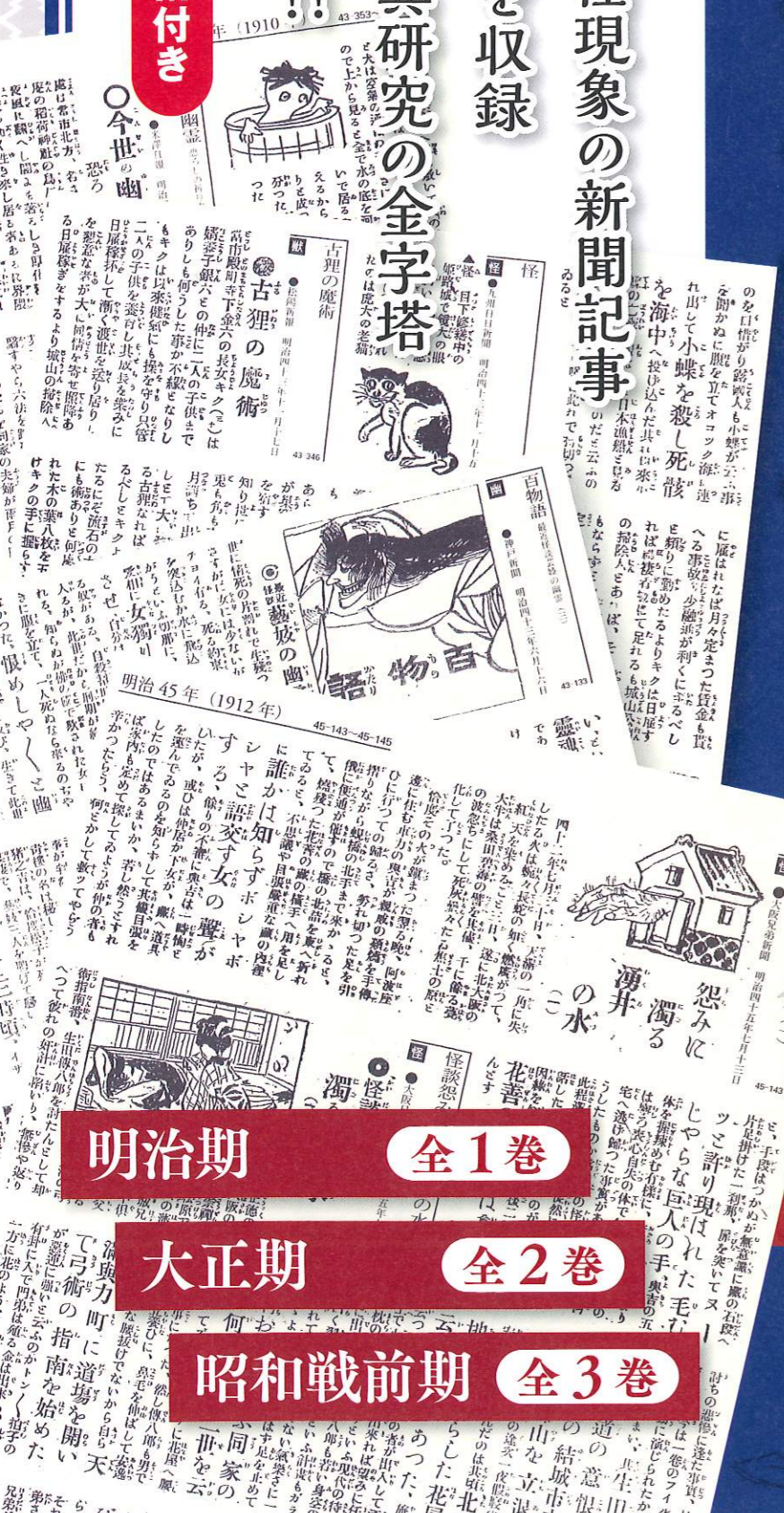
湯本豪一 編

## 全6巻

国書刊行会

妖怪・幽霊・怪現象の新聞記事  
 約1万5千件を収録  
 総8千頁、怪異研究の金字塔  
 遂に完結なる!!

総索引CD-ROM付き



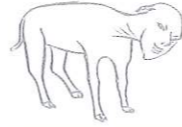
明治期 全1巻

大正期 全2巻

昭和戦前期 全3巻



# 本書をお薦めしたいのは



古くからの民間伝承が、さまざまに形を変えながら日本人の生活に息づき、色々な事件として多数記事化されている。

**民俗学および  
歴史・風俗研究者**

新聞という当時の最新メディアによって、怪異・妖怪事件が定型化され、普及していく様子が如実に見て取れる。

**社会学研究者**

都市怪談、幻想文学、ホラー文学の原型ともいえる記事多数。現代まで語り継がれる話の数々が生起する様が、時間の流れのなかで見て取れる。

**日本文学研究者**

## 本文見本

を乞ひて網に捲付  
け漸く引上げ見る  
ど全長約九尺肩に  
は頑丈なる鱗あり  
て脊は黒く腹部の  
色は銀盤の如くに  
して黒き輪郭あり  
淡紅色の斑點を有  
せり圖に示せる如  
く背部に八條の黒線あり線の部分は非常に  
坑けれど他の部分は双物にて切斷せられ得  
べく口は鰓に似て三角形の齒三本を有せる  
物にて誰あつて名を知る者なく何れも奇異  
なる動物として評判となりなりと思ふに  
泥鰌の變形したるものにあらざる歟



### 稀有なる海中の動物

●北海タイムズ 明治三十七年十二月二日

●稀有なる海中の動物 去る廿二日長崎  
縣北松浦郡黒島村字青の浦沖合に於て同村  
漁師の捕へたる甚だ異形の動物あり青の浦の漁  
師吉澤彦四郎の漁船外一隻が碇を距る七里許  
の沖合に於て網を掛け居るに前面近く巨大  
の動物浮びしより必定鯨なるべしと勢よく漕  
寄りて船を打ちたるに怪物は馬の如き聲を發  
して船を引き行く力甚だ強く迎も手に合はざるよ  
り船の助力を乞ひて  
網に捲附け漸く引上げ  
たるが全長約九尺肩に  
は頑丈なる鱗ありて背  
は黒く腹部の色は銀盤  
の如くにして黒き輪廓  
ある淡紅色の斑點を有  
せり圖に示せる如  
く背部に八條の黒線あり



### 編者紹介

**湯本豪一**（ゆもと・こういち）

民俗学者。風俗史家。元川崎市市民ミュージアム学芸室長。

その3000点に及び日本随一の妖怪コレクションは、広島県三次市に寄贈され、2018年に《湯本豪一記念日本妖怪博物館（三次ものけミュージアム）》として公開が予定されている。

### 主要編著書

『近代造幣事始め』駿河台出版、『図説明治事物起源事典』柏書房、『明治妖怪新聞』柏書房、『妖怪あつめ』角川書店、『妖怪と楽しく遊ぶ本』河出書房新社、『江戸の妖怪絵巻』光文社新社、『妖怪百物語絵巻』国書刊行会、『日本幻獣図説』河出書房新社、『百鬼夜行絵巻』小学館、『続・妖怪図巻』国書刊行会、『図説江戸東京怪異百物語』河出書房新社、『図説・円と日本経済』国書刊行会、『風刺漫画で日本近代史がわかる本』草思社、『日本の幻獣図譜』東京美術、『今昔妖怪大鑑 湯本豪一コレクション』パイインターナショナル

## CD-ROM検索

最終巻「昭和戦前期(下)」には、全巻の総索引CD-ROMが付いています。このCD-ROMは、各巻の「掲載記事内容一覧」をPDFで収録しています。

全6巻の1万5千件にのぼる膨大な記事の中から、〈河童〉〈人魚〉〈天狗〉〈狸〉〈怪談〉〈幽霊〉〈化物屋敷〉〈信濃毎日(新聞)〉〈九州日報〉などなど、さまざまなキーワードの自由自在な検索が可能です。



## 掲載記事内容一覧 (65%)

### \* 掲載記事内容一覧

番号	タイトル	記事内容	発行日	掲載紙
明治5年				
5-1	「夢現に旅」	狐狸に誰かされて、夢現に遠出	4/5	東京日日
5-2	「狸乱行」	悪戯が過ぎる狸のために禿翁を建てた	4/10	東京日日
5-3	「夢のお告げ」	川底の地蔵が夢に現れて、助けを求める	5/3	横浜毎日
5-4	「洞窟のお告げ」	洞窟に書があり、老人がお告げを聞く	5/23	横浜毎日
5-5	「猫の子を産む」	猫、狐の子を産む	5/28	東京日日
5-6	「上半身獣、下半身魚」	上半身獣、下半身魚の怪獣現れる	7/6	東京日日
5-7	「忽然と社土現る」	空中に社土が忽然と。狐狸の仕業?	11/7	郵便報知
明治6年				
6-1	怪物を獲たる説	手足の生えた魚。穿山甲だった	6/25	東京日日
6-2	狸の怪異	酒のつまみをくすね、そのお札を持ってくる狸	7/9	東京日日
6-3	老狸を捕うる件	大入道を探してみたらその正体は老狸だった	8/7	東京日日
6-4	「老狸」	捕えてみれば狸だった	8/12	郵便報知
6-5	狸の怪異	化物屋敷は狸の仕業らしい	8/27	東京日日
6-6	「化物屋敷」	老狸の幽霊が出る屋敷は空家	11/7	東京日日
6-7	「幽霊屋敷」	死んだ妻の幽霊が屋敷につく	11/30	郵便報知
6-8	「謎国の怪現象」	七不思議というものには必ず根拠がある	11/30	郵便報知
6-9	「狐狸の怪などない」	狐狸の迷信を否定	12/3	郵便報知
明治7年				
7-1	「狐に憑かれる」	狐に憑かれて、怪しいことを喋る	1/25	郵便報知
7-2	「狐の復讐」	妖怪中の母狐を殺し、父狐に復讐される	3/14	郵便報知
7-3	「異形の骨」	鴻島天神の近くの屋敷で骨が出る	4/17	横浜毎日
7-4	「呪いの刀」	呪いの刀で妻を斬り殺す	5/2	横浜毎日
7-5	「鯉魚」	鯉魚、漁船乗組員を喰う	5/25	東京日日
7-6	「石降が降る」	石が度々降ってきて、瓦が壊れるほど	7/18	東京日日
7-7	「老狸が亡き供に化ける」	狸で不明の孫が死亡。孫の声似った老狸を捕える	8/5	郵便報知
7-8	「神木が血を流す」	汁物屋が神木を切つて、神怪殺害に	8/5	郵便報知
7-9	「父の霊柩か?」	戻ってきた亡父は狸が化けたものだった	8/23	郵便報知
7-10	「墓の覆した土塊」	つがいの墓が崩落した後に墓をくくりの土塊	10/12	新聞雑誌
7-11	「戦死した義弟の霊が帰る」	戦死した義弟が幽霊になって帰つたと挨拶	11/14	東京日日
7-12	「読書を聴く狸か?」	教科書を首読する生徒に声を合わせる動物な狸	11/22	朝野
7-13	「半狼半猫」	猫と狼が混じりあったような珍獣を捕獲。博覧会へ	11/22	朝野
7-14	「半狼半猫」	顔は猫、体は狼に似た怪獣	11/24	読売
7-15	「乳飲ませ幽霊」	幼い子供を遺して死んだ母が不実な夫を怨み出る	12/6	郵便報知
7-16	「怪火に降石に」	怪火で家の物がよく焼ける家には石も降る	12/12	東京日日
明治8年				
8-1	「大蛇」	駒が醬油樽ほどもある大蛇に追いかける	1/14	読売
8-2	「狸が男に化けて来る?」	狸が女性の下へ男に化けて通っている?	1/17	東京日日
8-3	「巨大な鯉」	大鯉に小児が攫われそうになる	1/26	東京日日
8-4	「蛇が嵐を起こす」	蛇が嵐から黒雲を。大雨は数時間止む	1/28	あけぼの
8-5	「円朝の怪談会」	三遊亭円朝の怪談会は客常も魅惑的か?	2/15	朝野
8-6	「夫婦の幽霊」	妻を亡くした夫も病死、夫婦で化けて出る	2/16	東京日日
8-7	「幽霊が菓子を買に来る」	生きてまゝ埋葬された赤子のために幽霊が尽力	2/20	東京日日
8-8	「石が降る」	金物屋の裏の空地に続けに石が降る	3/6	東京日日
8-9	「前約? 海馬?」	頭は豹、脚は鱈。アザラシの何か?	3/9	郵便報知
8-10	「コン」と鳴いて自殺	狐を苛めた男が狐憑きになって自殺	3/12	東京日日
8-11	「幽霊の正体は猫」	幽霊の幽霊の正体は、大猫だった	3/13	あけぼの
8-12	「老狐美女に化ける」	夜中に訪ねてきた美女は老狐だった	3/19	東京日日
8-13	「移動を拒む老樹」	移植を拒むように大人数でも動かない老樹	3/20	あけぼの
8-14	「踊る二老狐を捕える」	狐が白昼から踊っている	3/30	郵便報知
8-15	「阿部晴明狐が憑く?」	お狐様が憑いたことをいいことに好き放題する女	4/6	東京日日
8-16	「野狐飼犬を射せし話」	狐と飼犬が争い取り合う	4/20	横浜毎日
8-17	「金毘羅様が憑く」	金毘羅様が憑いて、ご褒金を下す	4/22	東京日日
8-18	「狸に化けた詐欺師」	私は狸、子狸を食ってくれ、という女詐欺	4/26	読売
8-19	「雲火」	医者が夜道で鬼火を目撃	5/3	東京日日
8-20	「異骨」	両腕の怪獣の骨が用水路より出る	5/8	東京日日
8-21	「妖怪黒坊主」	毎夜、女房のもとに黒坊主が通ってくる	5/9	郵便報知
8-22	「狸の引越し」	文明の世に前えかたて、狸穴から引越し	5/13	あけぼの

